



総務文教常任委員会 産業厚生常任委員会 合同視察研修報告

1 調査年月日
令和7年10月8日（水）～10日（金）

2 調査項目

	調査先	調査項目
1	増毛町（留萌）	地域公共交通の取組について
2	余市町（後志）	子育て・教育施策について（総務文教）
3	喜茂別町（後志）	地域おこし協力隊について（産業厚生）
4	月形町（空知）	月形温泉の大規模改修実績及び現在の運営について

3 参加者

総務文教常任委員会	委員長	草刈 幸男	副委員長	桑田 孝彦
	委員	後藤 忍	議長	横山 敦
産業厚生常任委員会	委員長	山本 春光	副委員長	長山志津子
	委員	菊地 敏		

1 【調査先】 増毛町 10月8日 【調査目的】 地域公共交通の取組について

【研修概要】

増毛町で行っている有償運送事業「あつぷるハイヤー」の取組について研修を行った。

【経緯】

増毛町では令和3年3月にハイヤー事業者が撤退。これを受けて翌月から町有車により「無償運送事業」を開始した。当初、運転手は役場管理職が持ち回りにより担当していた。しかしながら町民から「管理職に無償で運転してもらうのは申し訳ない」との声があり、令和4年4月から会計年度任用職員が運転する有償運送事業「あつぷるハイヤー」を開始した。令和5年7月からは土日祝日の運行、さらに同年11月には夜間運行を開始した。



【事業内容】

○現在の運行状況

利用不可日	12月31日～1月3日
受付時間	月～土 9時～23時30分 日曜日 9時～17時
運行体制	
日中運行	(月～日 8時45分～17時) 運転手3名(会計年度任用職員)
夜間運行	(月～土 17時～24時) 業務委託(2名で受託)

○収支状況

使用料収入約450万円に対し人件費等の支出は約1,900万円で、差引1,500万円弱の赤字となっている。ただし、500万円程度、国からの補助金がある。

○町民の評価、事業の課題等

- ・町民からは高評価を受けており、利用者が増加している。
- ・日中の運転者不足時、夜間の受託者不在時には、町職員(副業)による運行も行っている。
- ・運行範囲は増毛町内のみ。現行制度上、町外(例：留萌市立病院等)への運行はできない。
- ・運転免許証を自主返納した70歳以上を対象に交通機関利用券を助成している。令和6年度の申請者は18名。

【視察を終えて】

事業推進にあたっては当初から相当な苦労があったものと想像できる。運転者不在の際には、町職員の副業により対応するなど、臨機応変に事業が進められており、町民サービスの向上につながっている。

天塩町においては、タクシー会社の運行により公共交通機関が保たれているが、参考となる取組である。

2

【調査先】 余市町 10月9日

【調査目的】 子育て・教育施策について(総務文教)

【研修概要】

余市町が小学校内で実施する「放課後児童クラブ」(天塩町の「こがら児童クラブ」に相当)について研修を行った。

【事業内容】

余市町では3校の小学校に計8クラスの放課後児童クラブが設置されている。いずれも校内の余剰教室を改修して実施している。

利用率は高水準を維持しており、特に1年生は7割を超え、低学年ほどニーズが高い傾向が見られる。

【視察を終えて】

天塩町では、小学校から「こがら児童クラブ」実施場所のファミリースポーツセンターまで徒歩または自転車により移動しており、交通量の多い国道の横断や、冬季を中心に荒天など、安全性について懸念がある。余市町では児童が通う小学校の校舎内において事業が実施されており、当町が懸念する移動面など、事業を利用する児童の負担が軽減できている。天塩小学校では施設の構造や余剰教室がないなど様々な課題はあるが、より安全な運営を実現するため、その在り方について引き続き検討することが必要と考えられる。



3

【調査先】 喜茂別町 10月9日
【調査目的】 地域おこし協力隊について（産業厚生）

【研修概要】

地域おこし協力隊の継続した受入れのための募集方法のほか、どのような活動を行い地域のまちおこし、定住につながっているかに着目し研修を行った。

【事業内容】

○喜茂別町の地域おこし協力隊員数の推移

	喜茂別町			天塩町（参考）		
	採用	任期満了後		採用	任期満了後	
		町内就業	転出		町内就業	転出
H22年度	10名	6名	4名	－	－	－
H24年度	3名	1名	2名	4名	4名	－
H25年度	－	－	－	2名	2名	－
H26年度	－	－	－	1名	1名	－
H27年度	－	－	－	2名	－	2名
H28年度	－	－	－	2名	2名	－
H29年度	1名	1名	－	2名	1名	1名
H30年度	－	－	－	2名	1名	1名
R元年度	2名	2名	－	1名	－	1名
R2年度	1名	1名	－	1名	－	1名
R3年度	3名	3名	－	2名	2名	－
R4年度	1名	1名	－	－	－	－
R5年度	1名	任期中		－	－	－
R6年度	5名			－	－	－
R7年度				2名	任期中	
合計	27名	15名	6名	21名	13名	6名

○退任後在住者の就業先

町外企業就職、町内企業就職、整体経営（町議）、新聞店経営（町議）、空家を活用しカフェ経営、町内小売店、農家、飲食店経営、キッチンカー経営、町職員、会計年度職員 など

○現在任期中の協力隊員の活動状況（一例）

現在5名在籍する協力隊員のうち有害鳥獣駆除関係の協力隊員は、シカ肉加工をメインに行っている。町では有害鳥獣（特にシカ）駆除が課題であり、産廃処理の料金が1.5倍となる中で、食肉加工施設の建設を計画。建設費5千万円、国の補助2,500万円程度。

○募集方法と定住に向けた取組

- ・本人の生業を主にした形（委託型）として募集。応募が殺到することはないが1人、2人といった少人数であっても応募につなげたい考え。
- ・商工会、観光協会、OBにより、サポート、コミュニケーションを図り、定住に結びつくよう努めている。

【視察を終えて】

喜茂別町では、地域おこし協力隊員は、任期満了後に起業支援制度を活用するなどし、地域に残る割合は60%を超える。就業先は多岐にわたるが、自ら経営者となって地域に定着する例もあり、商工業の活性化など、まちづくりに結びついていると感じられる。



【研修概要】

月形町では令和6年度に温泉施設のリニューアル工事が完了し、月形町振興公社を指定管理者として運営がされている。天塩町も同様の温泉施設を運営する中、月形町における改修実績や運営方法に着目し、研修を行った。

【事業内容】

○施設の沿革

昭和62年に日帰り入浴施設がオープン。平成4年には宿泊研修施設を増設、平成10年には温泉施設を増築した。令和6年に改修を経てリニューアルオープンした。改修に合わせて新たに道の駅「275つきがた」として登録。



○改修の概要

事業費用は、設計、建築・電気・設備・外構工事、備品購入等を含め約12億2,760万円。財源は、過疎債と一般財源。

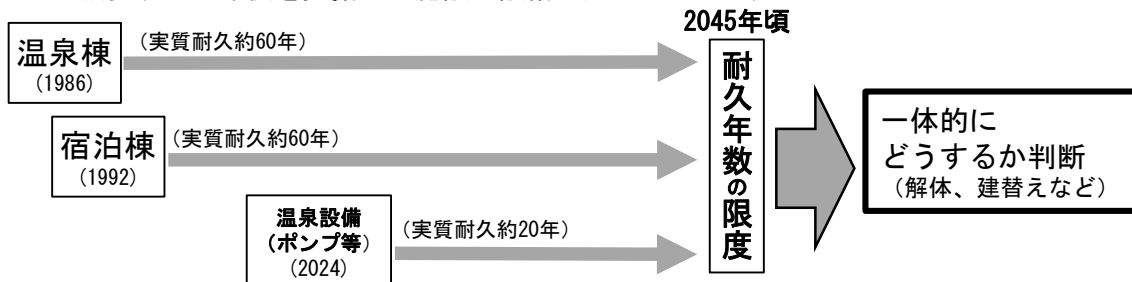
令和5年10月から翌年6月までを休業期間として、改修を行った。

○改修にあたっての考え方

現在約2,600人の月形町の人口が、20年後には2千人を割り込むとの予測のもと、現有規模での運営を継続できるか協議した。

温泉設備は15～20年程度で更新が見込まれるものであり、将来、更新が必要となる時期に温泉棟・宿泊棟を含めて一体的に運営方針の判断（解体、建替えなど）が行える余地を残すこととした。そのため、各施設・設備が2045年頃に横並びで実質耐久年数に達することを意図して、新築ではなく改修により対応することとした。

〈人口が減少する20年後を見据えた施設・設備運用のイメージ〉



○運営体制

指定管理制度により運営。指定管理者は月形町振興公社。温泉、宿泊棟のほか野球場など町内9施設の指定管理を受託している。指定管理期間は令和6年度から5年間。

○課題等

従業員確保に苦慮している。従業員を町内のみで確保することは難しく、近隣から通勤するスタッフもいる。マルチタスク化を図らなければ業務は回らない。

【視察を終えて】

天塩町が指定管理制度により運営する「てしお温泉夕映」については、令和7年度をもって指定管理期間が満了するほか、施設の老朽化に伴う大規模修繕が見込まれる状況にある。

視察を行った月形温泉の運営は第三セクターによる指定管理で、町から出向する職員の熱意が伝わってきた。月形温泉の周辺には石狩川旧川を望む偕楽公園など複数の町有施設が整備されており、月形町振興公社を指定管理者として一括した管理が実施されている。天塩町においても温泉施設に鏡沼海浜公園が隣接しており、公園を含めた管理運営等、参考となる部分が多い。